

山口県教育委員会会議録

日時：平成28年7月21日

場所：山口県教育庁教育委員会室

教 育 長	<p>それでは時間になりましたので、ただいまから7月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>最初に本日の署名委員の指名を行います。</p> <p>宮部委員と佐野委員、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、早速議案の審議に入りたいと思います。</p> <p>議案第1号について、高校教育課から説明をお願いします。</p>
高校教育課長	<p>それでは議案第1号、「県立高校の再編整備について」御説明いたします。資料は、3ページから5ページまでとなっておりますが、4ページから5ページの参考資料を御覧ください。</p> <p>響高校と豊北高校の再編統合案につきましては、5月の教育委員会会議におきまして、お示しの資料を御説明し、御協議をいただきました。その後、6月5日に響高校のある旧豊浦町、それと豊北高校のある旧豊北町におきまして、地域説明会を開催いたしまして、案の説明をし、周知を図るとともに御意見をいただいたところです。</p> <p>説明会の案内につきましては、報道発表に加えまして、下関市内の全ての中学生の保護者に配布するとともに、説明会の会場となります各公民館への案内掲示などにより、参加を呼びかけました。</p> <p>そうした中で、豊浦会場の方では28人、豊北会場の方には41人の方々にお集まりいただきました。その中で、御意見といたしましては、「下関北部地域に教育の空白地帯ができないよという考え方に賛同する。」でありますとか、「質の高い教育を行うには一定の生徒数が必要であり、県教委の英断にエールを送る。」といった御意見、また、「豊北町は交通事情が悪いが、生徒は集まるのか。」とか、「これまで響高校を志願していた旧市内生徒の受け皿はどうするのか。」といった御意見もいただいております。</p> <p>こうしていただいた様々な御意見につきまして、また、5月の本委員会での協議、さらに6月県議会の文教警察委員会における協議、また、関係者の御意見など、総合的に勘案した上で、資料3ページにお示ししてありますように、響高校と豊北高校につきましては、平成30年度に両校を再編統合し、新高校を豊北高校の校地に設置することとし、いただいた御意見につきましては、新高校の学校づくりの方に生かしていきたいと考えております。</p> <p>以上、このように進めてよろしいか御審議をお願いいたします。</p>
教 育 長	ただいま高校教育課から議案第1号についてただいま説明がありま

	<p>した。御意見や御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>概要については4ページや5ページにありますが、前の教育委員会会議でもありました内容でございますが、その後の各地域での説明とか議会での協議の様子を高校教育課から説明をいたしました。御意見ありましたらお願いいたします。</p>
石 本 委 員	<p>部活動についてなんですが、移行期間においては、新高校として皆さん高体連とか出られるようになるんですかね。高校で部活を頑張っているお子さんが、例えば野球とか1年生が新高校になったらとか、1・2年生が新高校なので人数が足りなくて、出にくいとか出づらいついとかいうことがあると、ちょっと可哀そうかなと思いました。</p>
高校教育課長	<p>移行期間におきましては、新高校、従来の響高校と豊北高校、それぞれの生徒が在籍する形になりますが、部活動につきましてはそれらの高校が合同チームとして試合等に参加することも可能ですし、それぞれ単独で参加することもできます。各学校の実情等、また生徒の状況を踏まえながら、今後検討する形になります。</p>
教 育 長	<p>現在も下関工科高校ができておりますが、下関中央工業、それから下関工業高校が、それぞれ合同でやっているところもありますし、単独でやっているところもあります。なので、対応できるようにしていきます。その他ございませんでしょうか。</p>
佐 野 委 員	<p>統合再編ということで、以前からも学校規模を確保して、高校教育の質を向上させるということになっております。</p> <p>基本的には山口県内の中学生が進路先として目標にしていく学校になるだろうと思いますけれども、県内の中学生だけではなく、県外の人たちにとっても、あの学校に行ってみたいねというような特色のある、学校づくりにつなげていただければ嬉しいなと思います。</p> <p>また、地域との連携・協働というのを打ち出されているので、地域住民の方との理解や協力を得ながら、しっかり特色ある学校として、新しい学校をつくっていただければなと期待しております。</p>
高校教育課長	<p>はい。そうした御意見も、いろいろ、それぞれ御意見いただいておりますので、新高校を今から学校づくりを進めていく上で、参考にさせていただきます。ありがとうございます。</p>
教 育 長	<p>はい。他にありませんでしょうか。</p> <p>だいぶ時間をかけて議論しておりますが、いろいろな御意見が地元にももちろんあると思います。質の高い高校教育に向けて、今から、新しい高校でいい教育をしていきたいと思っております。またアドバ</p>

全 委 員	<p>イス・御意見等ございましたら、お教えいただけたらというように思っています。</p> <p>議案第1号について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
教 育 長	<p>承認。</p> <p>それでは議案第1号を承認いたします。</p> <p>続きまして、議案第2号について、特別支援教育推進室から説明をお願いします。</p>
特別支援教育推進室次長	<p>特別支援教育推進室からは、学校運営協議会を設置する学校の指定に関する、第2号議案についてお諮りいたします。資料は6ページからとなっております。</p> <p>本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5第1項、及び学校運営協議会の設置等に関する規則第1条の規定に基づき、学校運営協議会を設置する学校の指定について、お諮りするものでございます。</p> <p>指定する学校は7ページにありますように、県立宇部総合支援学校、及び県立下関総合支援学校の2校とし、指定の期間は平成28年9月1日から3年間としております。</p> <p>詳細については、8ページの参考資料により御説明いたします。</p> <p>はじめに、1の特別支援学校へのコミュニティ・スクールの導入の目的ですが、障害のある生徒の自立と社会参加を推進するために、学校・家庭・地域が一体となって、教育の充実を図ることができるコミュニティ・スクールを特別支援学校に導入し、障害のある児童・生徒が安心して地域で生活し、自信をもって社会参加することができるよう、社会総がかりによる教育の充実を図り、共生社会の形成を目指すものであります。</p> <p>具体的な取組につきましては、図にお示しをしておりますとおり、学校と地域や関係機関等が一体となって、地域資源を活用した取組や、地域の理解促進に向けた取組、また、インクルーシブ教育システムの構築に向けた小中学校等との交流及び共同学習などの活動を通して、学校・家庭・地域がこれまで以上に連携・協力を図り、つながりを強化して、最終的には共生社会の形成につながるよう取組を進めてまいります。</p> <p>2の導入計画ですが、平成29年度までに特別支援教育センターを設置する特別支援学校7校に導入することとしておりますが、今回指定申請書が提出されました2校につきましては、9月1日から先行導入をすることとしており、本日、御審議をいただいているところで</p> <p>また、平成30年度までには、全ての県立特別支援学校12校への</p>

	<p>導入を完了する予定としております。</p> <p>それでは、3の先行導入いたします2校の特色及び主な取組について御説明いたします。</p> <p>まず、宇部総合支援学校につきましては、「できることを活かして、地域のために」を目標に掲げまして、地域貢献に全校体制で取り組むとともに、立地条件を活かした実践的な職業教育の充実を一層促進し、「地域とつながり、地域とともに育つ学校づくり」を目指すこととしております。具体的には、小・中学校PTAと連携した産業科生徒によるボランティア活動、地域の施設や自治会等と連携した清掃活動、老人施設と連携した授業「介護福祉」の展開、こういったものに取り組んでまいります。</p> <p>下関総合支援学校につきましては、地域の教育資源を活かして、地域の中での連携やネットワークを強化しながら、地域に開かれた「地域とともにある特別支援学校づくり」の実践に取り組むとともに、特別支援教育の充実・魅力ある学校づくりを積極的に推進することとしております。</p> <p>具体的には、地域住民の方や福祉施設の利用者等を学校に招き、「喫茶サービス」等を通じた交流や、地元企業や外部専門家の参画による授業実践、「あいサポート研修会」等を活用した地域の障害に関する理解促進などに取り組むこととしております。</p> <p>なお、参考といたしまして、本年4月1日現在の全国の特別支援学校へのコミュニティ・スクール設置状況をお示ししております。事務局といたしましては、申請のあった2校につきましてコミュニティ・スクールの指定により、地域と一体になって学校の活性化や教育の質の向上が図られるとともに、魅力ある教育活動が期待できると支持をしており、指定が適当であると考えております。</p> <p>以上、御審議をお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>はい、ただいま特別支援教育推進室から議案第2号について説明がありましたが、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>小中学校のコミュニティ・スクールは全国でも、1割程度まで進んでおりますけれども、特別支援学校について今、全国で10校ということで、あんまりたくさんはないということですが、是非それに向けて取り組みたいということで、最終的には共生社会の実現ですという大きな目標を掲げています。はい、どうぞ。</p>
石 本 委 員	<p>下関の総合支援学校は、利用者を、地域住民の方や福祉施設の利用者などを招き入れたりとか、あと地域の大学とか看護学校との総合学習ということで、多分来ていただいたり行ったりして、勉強されていると思うんですが、招くだけではなくて地域の文化祭とか普通の地域の高等学校とかの行事参加とか考えてもいいのかなと思いました。</p>

	<p>宇部の方は割と校外から、地域のお祭りやフェスタで販売をしたりとか小中高校との交流、共同学習と書いてありますので、とても良いと思いましたが、それを全県に広めていくという形で、受け入れるばかりではなく外へも向かっていけるようなコミュニティ・スクールの形で広めていけたら、私は理想的かなと思います。</p>
特別支援教育推進室次長	<p>御意見大変ありがとうございます。下関総合支援学校におきましても、宇部で行っております「交流及び共同学習」等にも積極的に取り組んでおる状況もございまして、今後それを一層促進していきたいと思っております。</p> <p>また、宇部におきましても更にそういった取組を促進して、この2校については、特別支援学校での先頭的な役割も担うことになると思いますので、全県的に広げていきたいと思っております。御意見ありがとうございました。</p>
教 育 長	<p>他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。</p>
岡 野 委 員	<p>私は今、萩の総合支援学校に時々伺っているんですけど、特別支援学校をこうしてみますと、すでにコミュニティ・スクールは中にできているんじゃないかなという思いをしています。ですからコミュニティ・スクールを取り入れるのは、一番皆さんがお待ちになっていたんじゃないかと思っておりますので、これがもう少し中身を詰めて充実させたら、保護者の方も地域の方も積極的に協力をしてくださると思います。普通の学校よりも取り入れやすいと思うし、取り入れていかなければいけないことだし、もうすでに半分ぐらいは中身として、もうできているものなんじゃないかなと思いながら見せてもらっていますので、是非これは進めていただきたいと思っております。</p> <p>それと、学校ごとに特色があると思うので、このコミュニティ・スクールを取り入れることによって、どういった目的を持つのか、目標を持つのか、学校独自の何かそういったものを打ち出して、校長先生を中心にしてまとめていただくと、とてもいい形で前へ進んでいくんじゃないかな。それから、学校に通っている子どもたちが、社会の一員として育つことができるような形に是非持っていただきたいという思いを持っています。よろしく願いいたします。</p>
教 育 長	<p>はい、ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。</p>
中 田 委 員	<p>コミュニティ・スクールというのは、個別の学校については、個別の課題があるとは思いますが、特に総合支援学校の場合は、親御さんも、そして本人も将来に対する不安、仕事ができるんだろうとか、自立して暮らしていけるんだろうかという不安を持っている場</p>

<p>教 育 長</p>	<p>合が多いと思うんですね。  そうすると、いろんな地域の方の参画というのは必要だと思うんですが、そのなかでも将来の就職を意識した取組が1本の柱として、あってもいいんじゃないかと。もちろん、症状とかいろんな個別の身体的な状況があると思いますので、全部同じように扱うことはできないかもしれないですが、就職を意識した取組というのが1本あった方がいいんじゃないかなと思います。</p>
<p>特別支援教育推進室次長</p>	<p>いかがですか。はい、どうぞ。</p> <p>御意見ありがとうございます。ここに先行導入します宇部総合支援学校におきましては、その一番上にありますように産業科というのがあります。そこでは、特に就労を目指す生徒が多いわけなんですけど、現在でも外部講師としてできるような方々に学校の方に入ってもらって、授業改善のためにいろんな御助言等をいただきながら進めているということもございます。</p> <p>こういった取組をコミュニティ・スクールの取組と関連させながら、しっかり充実させていければと考えております。ありがとうございます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ありがとうございます。はい、どうぞ。</p>
<p>岡 野 委 員</p>	<p>今ちょっとそれで思いついたんですが、各地域に大学がありますよね。だから、大学生と特別支援学校の生徒との交流というのをもっとやっていった方が、大学生たちも中には教員になる人もいるし、社会に出る人もいるけど、障害がある人たちとの接点は学生時代に持つことは社会に出て彼らの為にもとても良いことじゃないかなと思うので、そういった交流をしていただけたらと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>次長いかがでしょうか。</p>
<p>特別支援教育推進室次長</p>	<p>はい。ありがとうございます。現在、各総合支援学校で様々な行事等がございます。例えば、文化祭でありますとか、体育祭、運動会、それから全県的には、先日、県内の総合支援学校の体育大会が開かれたんですが、そういったところで、各大学、短大からボランティアとして学生さんにたくさん入っていただいて、お手伝いしていただいております。そういう場でしっかりと交流等を図って、こういった取組をさらにいっそう進めてまいりたいと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。</p>

宮 部 委 員	<p>コミュニティ・スクール、小学校・中学校、それぞれ普通のことについては過去の例がいろいろあって、ある程度型にはまったものがあるんじゃないかと思います。</p> <p>特別支援学校の場合は、先ほど中田先生からございましたように、障害の程度とか種類とかによって、それぞれの学校、年次ごとに違うと思うんで、なかなかその辺が同じ様にというわけにいかないと思います。そこまで踏み込んだ中でやっていくというのは、大変と思うんですが、今、ありますように日本でトップを切って30年度には全校でやっていこうということなので、非常に期待しております。大変だと思いますが、それぞれ形が違う場面ということがありますので、よろしくお願いします。</p> <p>それと、これも中田委員さんが言われていましたが、就職ということがいろいろ問題になると思うんですが、去年の中国五県の教育委員の会議でもこれがテーマになって、随分進んだ県もあったようでございます。学校運営協議会の中に産業の方々も入っていただいた中で、運営協議会を進めていくということをするれば、一番あの根幹の話から、ただ「就職をお願いしますよ。」というんじゃなくて、学校を運営するということの中で入っていただいた方がいいんじゃないかな、と思います。</p>
教 育 長	はい、ありがとうございます。
佐 野 委 員	私も他の委員さんと同じような思いですけれども、頭ではわかっていても、実際に特別支援学校の生徒さんと触れ合って、初めてわかることっていうのは多いと思うんで、コミュニティ・スクールの中で、通常高校以上に理解とか啓発、そういったものをする場として、とてもいい場じゃないかなと思っております。是非進めていただければと思います。
教 育 長	ありがとうございます。はい、どうぞ。
中 田 委 員	<p>大学に障害のある学生が今年から、今まで以上に入学してきています。見た目で「明らかにこの方は障害がある」と分かる障害と、そこまで酷くないけど精神的な悩みを持っているとか、身体的にも人にはなかなか分かってもらえないんだけど調子が悪いとか、いろんなレベルの方がおられて、それらの人を全部対象にして、障害がある子どもさんに対して、これから大学は積極的に対応していきますということで、多分全国の国公立の大学でそれを進めているところだと思うんですね。</p> <p>今までであれば、そういう学生さんが入学して、その学生さんが、自分が受講する授業の先生にお願いして、私はこういう障害があるの</p>

<p>教 育 長</p>	<p>で、こういうふうな授業をやっていただけませんかとか、あるいは、ちょっと聞こえにくいんで録音させてもらっていいですかとか、プリントをもう少し大きめに印刷して配っていただけませんかとか、個別の対応を今まではやっていたんですけど、それはもう組織として、絶対にやらないといけないという意識になっているわけですね。</p> <p>それぞれの学部でそういった研修を全員が受けることが義務になっているわけです。そういうことで、大学に進学されるような子どもさんがおられた場合は、今まで以上に、教育の機会が提供されると、そういう仕組みが出来つつあると、ということをちょっとお知らせしたいなということです。</p> <p>ありがとうございます。小・中・高だけじゃなくて、大学でもそういった取組が進んでいるということなんですね。ありがとうございます。いろいろと御意見をいただきましたが、議案第2号について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
<p>全 委 員</p>	<p>承認。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは、議案第2号を承認いたします。</p> <p>続きまして、議案第3号について、社会教育・文化財課から説明をお願いします。</p>
<p>社会教育・文化財課長</p>	<p>議案第3号「山口県社会教育委員の委嘱について」御説明いたします。資料の10ページを御覧ください。</p> <p>現社会教育委員20名の任期が今月末で満了することに伴い、新委員の委嘱についてお諮りするものでございます。</p> <p>社会教育委員の職務につきましては、社会教育法第17条によりまして、「社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に応じ、意見を述べること、また、必要な調査研究を行うこと」などとなっております。</p> <p>次に候補者名簿でございますが、11ページを御覧ください。</p> <p>選任に当たりまして、「学校教育の関係者」、「社会教育の関係者」、「家庭教育の向上に資する活動を行う者」につきましては、これまでどおり、団体のほうから推薦をいただいた方を選任しております。備考欄に再任とお示ししている方は、引き続き委員をお願いする方でございます。新任の方につきましては、「学校教育の関係者」のうち、國吉哲郎氏は県公立高等学校長会から、河村茂実氏は県私立中学高等学校協会から、作本照子氏は県私立幼稚園協会から、それぞれ御推薦をいただいております。</p> <p>また、「社会教育の関係者」のうち、藤家幸子氏は県連合婦人会から、板谷正氏は県公立高等学校PTA連合会から、俵薫氏は県子ども</p>



	<p>会連合会から、細野美幸氏は県PTA連合会から、山口智子氏はNPO法人子どもと本ジョイントネット21・山口から、それぞれ御推薦を受けまして、新たに選任した方です。</p> <p>次に、「学識経験のある者」につきましては、指名により選任をいたしておりますけれども、長年にわたり御就任をいただいております、宇部フロンティア大学学長の相原次男氏から、退任の御意向が示されており、新たに、学校法人加計学園広報室参与の江原健二氏にお願いしたいと考えております。江原氏は、前長門市教育長として、社会教育を含めた教育全般に携わってこられており、本県が抱える課題等も踏まえながら、御意見をいただけるものと考えております。</p> <p>また、報道関係者としましては、前はテレビ関係者から山口放送株式会社に委員をお願いしておりましたが、今回は新聞関係者のうちから、みなと山口新聞社山口支社長の広瀬誠氏にお願いしたいと考えております。</p> <p>なお、公募委員につきましては、このたび、男性5名、女性1名の計6名から応募があり、選考委員会の選考によりまして、庄司一也氏を選任いたしました。庄司氏は、徳山大学福祉情報学部特任講師として御活躍中であり、幅広い視野で御意見をいただけるものと考えております。</p> <p>また、各委員の主な活動経歴等につきましては、12ページ及び13ページに記載しておりますので、御参照ください。</p> <p>以上、20名いずれの方も社会教育に関心と熱意を持たれた、社会教育委員にふさわしい方というふうに考えております。御審議のほどよろしくお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>ただいま社会教育・文化財課の方から議案第3号について説明がありました。御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>はい、それでは議案第3号について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
全 委 員	承認。
教 育 長	<p>それでは議案第3号を承認いたします。</p> <p>それでは、引き続き意見交換に移ります。</p> <p>本日の意見交換のテーマ「「やまぐち型地域連携教育」の推進について」、義務教育課から説明をお願いします。</p>
義務教育課長	<p>それでは、「やまぐち型地域連携教育」の推進について御説明いたします。</p> <p>最初に、光市立浅江中学校のコミュニティ・スクールの取組をまと</p>

めた県政テレビ番組「イキイキ！山口」を御覧いただきます。

(「イキイキ！山口」 放映)

本県では、今のビデオのようにコミュニティ・スクールが核となり、中学校区をひとまとまりとした「地域協育ネット」の仕組みを生かして、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援する「やまぐち型地域連携教育」の推進に取り組んでおります。

お配りしている資料には、16ページから子どもを取り巻く社会環境や学校、家庭、地域の連携・協働の必要性、国の動向等についてもお示ししておりますが、時間が限られておりますので、本日は今年度の県教委の取組、各学校での具体的な取組、成果等を中心に説明させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

資料は22ページから御覧いただけますか。画面にも同じものを映させていただきます。

では、「やまぐち型地域連携教育」の一層の充実に向けた、今年度の県教育委員会の取組から説明いたします。

まず、全県的な推進体制の強化についてです。昨年度から、県コミュニティ・スクール推進協議会や「学校・家庭・地域の温かい絆づくり」推進会議を開催し、県の取組方針や課題等について委員の皆様から意見をいただいております。コミュニティ・スクールと地域協育ネットの一体的な推進という観点から、両委員が課題や今後の取組について共有する必要があり、第2回の協議会は合同開催することとしております。

次に研修会の充実についてです。来たる12月17日に、周南市文化会館で文部科学省との共催により、「やまぐちコミュニティ・スクール推進フェスティバル」を開催します。また、8月から12月にかけて、県内7地域における「やまぐち地域連携教育の集い」も開催します。地域連携担当教職員をはじめ、より多くの教職員や保護者、地域の方に参加していただき、好事例の普及や推進気運の醸成に努めてまいります。

続いて、「やまぐち型地域連携教育」の推進の核となる人材の配置や養成についてです。コミュニティ・スクールの取組充実に向けて指導・支援を行う山口CSコンダクターを、今年度は19市町全てに配置するとともに、中学校区において、学校の教育支援活動等の充実のために、学校や地域の団体等との連絡調整、協力者の確保などを行う、統括コーディネーターの全中学校区への配置を平成29年度末までに進めているところです。

さらに、コーディネーターの養成をはじめ、家庭教育アドバイザーの養成も行っています。好事例の普及も重要であることから、今年度新たに「やまぐち型地域連携教育」のPR用のDVDを作成し、実践

事例集につきましても、コミュニティ・スクールと「地域協育ネット」それぞれで作成していたものを「やまぐち型地域連携教育」実践事例集として作成・配付します。また、広報番組としての「はつらつ山口っ子」も、この6月から毎月第3日曜日に放映しており、合同の学校運営協議会等における熟議の場づくり支援のためのサポート事業も継続実施しております。

また、「やまぐち型地域連携教育」の充実に向けては、学校教育と社会教育の連携が大変重要であることから、今年度から義務教育課内に「やまぐち型地域連携教育推進班」を立ち上げ、関係各課の連携のもと、取組を進めております。コミュニティ・スクール及び地域協育ネットの担当者と山口CSコンダクターの合同会議を年3回開催し、県教育委員会と各市町教育委員会が課題を共有し、今後の取組の充実につなげていくこととしております。

県立学校へのコミュニティ・スクールの導入についてですが、高等学校においては、地方創生や特色ある学校づくりという観点から、3校をコミュニティ・スクールに指定し、その成果や課題についての検証を進めてまいりたいと考えております。また、特別支援学校につきましても、先ほど御承認いただきましたように、今年9月1日、2校に先行導入し、平成30年度末までに特別支援学校12校全てにコミュニティ・スクールを導入することとしております。

さらに、今年度はより多くの地域の方が訪れる学校づくりを推進しています。これは、地域の様々な団体の情報をもっている社会教育主事や公民館主事に、学校から相談をもちかけることにより、地域の方々に学校のコミュニティルームや余裕教室、図書館や特別教室などを各団体の会議や活動等で積極的に利用していただく取組です。学校をちょっと立ち寄る縁側としても活用していただくことで、日常的に地域の方が訪れる学校づくりにつなげていくよう、各市町教委や学校に推進を呼びかけており、現在、取組が進んでいるところです。

こうした取組により、各学校で様々な特色ある取組が行われています。右上の授業改善の取組への地域の方の参画、また、学校支援の取組として、下にあるような学習支援や乳幼児とのふれあい学習のサポートなど、地域と連携・協働した活動が展開され、学校教育が充実してきています。

また、地域の方とのふれあいスペースの活用や生涯学習講座の作品の校内展示、先ほどのビデオにありました大人の英会話教室の実施など、学校が地域の大人の学びの場、地域の方が集う場となってきています。子どもたちは、地域の大人と地域課題について熟議をしたり、観光ガイドやボランティア活動など、地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。さらに、中学校区での熟議を通して、地域ぐるみのあいさつ運動や避難訓練の実施、巨大壁画の作成、また、漫画によるコミュニティ・スクールだよりの作成など、地域へ工夫した意識啓発も行

われております。

こうした「やまぐち型地域連携教育」の取組の成果として、まず、1つ目は、グラフに示しておりますように、県内の約9割の小中学校で、来校者が増加しているということがあげられます。また、2つ目は、次のグラフに示されているように、子どもたちの自己肯定感や郷土を愛する心が高まってきている、ということです。

具体的に子どもの声をいくつか紹介しますと、「地域の伝統文化をしっかりと引き継いでいきたい」、「お世話になった地域みなさんのように、だれかの支えになれるような深い思いやりのある人を目標にがんばりたい」、「職場体験学習で学んだことを生かして、将来、地域に貢献したい」という声や、「将来、お世話になった地域に住み、コミュニティ・スクールのリーダーになって、将来の子どもたちに恩返しをしたい」といった声が聞かれるようになってきています。

地域の大人からは、「子どもと一緒に活動することが、やりがいや生きがいにつながっている」、「先生たちと意見を出し合い、協力し合い、一つのことができあがっていくことに、喜びを感じる」、「子どもたちが落ち着いてきた。よく挨拶をするようになってきた」という声をいただき、保護者からは、「子どもの勉強に対する構え、姿勢が大きく変わった」、「地域の方が、子どものいけないところを指導してくださるし、親にも注意してくださることをありがたく感じている」、「毎回楽しく学校運営協議会に参加している」という声が聞かれるようになってきています。

さらに、教職員からは、「地域の方との交流を通して、子どもたちが成長していくのが手に取るようにわかるのが楽しい」、「子どもが変わる、学校が変わる、地域が変わるのが目に見えて表れるので、やりがいを感じる」、「地域の方に教えていただくことにより、自分自身が勉強になった」といった声が聞かれるようになってきています。

小・中学校のコミュニティ・スクールが100%となった今、県教育委員会としましては、このような「やまぐち型地域連携教育」の取組の成果についても、今後、研究を進めてまいりたいと考えています。

子どもたちの生きる力は、信頼できる多くの人との関わりと、様々な経験の中で育まれるものです。学校・家庭・地域の連携・協働による「やまぐち型地域連携教育」の充実は、将来を担う子どもたちの育成をはじめ、地域教育力の向上、さらには、学校を核としたまちづくりにつながっていくと考えております。

そこで、本日は、「やまぐち型地域連携教育」の充実に向けて、特に、これからの学校と地域の協働の姿について、委員の皆様には様々な観点から、御意見をいただきたいと思いますと考えます。どうぞよろしく願いいたします。

教 育 長	<p>ありがとうございました。「やまぐち型地域連携教育」の推進について、ただいま義務教育課から説明がありましたけれども、御質問もあろうかと思いますが、この意見交換のなかで、是非お尋ねいただけたらと思います。</p> <p>それでは早速意見交換に入りたいと思いますが、先ほど示されたように、「やまぐち型地域連携教育」の充実ということについて、御意見いただきたいと思います。視点として、「これからの学校と地域の協働の姿について」と書かれており、ちょっと抽象的ですが、まず、学校と地域が協働する理想的な姿について、どんなことをイメージするか、というのをお話しいただいた後に、そのような理想の姿に近づいていくためには、今後どのような取組が必要かについて、御意見をいただければいいなと思っております。問題・テーマによっては、あるいは発言によっては、二つ一緒になったりすることもあるかと思っております。そこは随時、対応していきたいと思っております。</p> <p>まずは、理想的な姿、学校と地域が協働する理想的な姿として、どんなことをイメージしていくかということ、あるいはどんなことをイメージされるのかということについて、自由に、質問も含めて、御発言いただけたらと思います。よろしく願いいたします。</p>
石 本 委 員	<p>子どもさんも地域の方も先生も、みんな「やって良かったな」という結果が出れば、私は理想的かと思っております。</p> <p>お子さんも地域の方と交流ができ、地域の方もお子さんと交流をすることで、生きがい、やりがい、最後の方にあったような「勉強が楽しい」、「地域の方と一緒に遊べて楽しい」という気持ちが湧いてくるようなコミュニティ・スクールの姿がよいと思えました。</p> <p>先生にとっても地域の方に入っただいて、美術とか家庭科とか技術とか水泳の授業とか、先生の目がたくさんいるような授業、先生の助けがたくさんいるような授業の少しの助けでもできるような方に入っただくことで、「この方に習った」、「この子に教えた」という、成果が少し出てくるような授業に参加していただくというのもいいと思えました。</p> <p>部活の方も、地域のサークルとかクラブに呼びかけることで、専門的な技術を子どもさんが習いたいとか、中学高校の部活は顧問の先生の負担がかなり大変と聞いていますが、その負担も「地域のためになりたい」という人が出てくれば、「この子たちと一緒に全国へ行きたい」とかそういう方があれば、子どもたちにとってもいいし、先生にとってもいいし、地域の方もそれを生きがいとして担っていただけるようなクラブ活動にもなるのかなと思います。皆さんが「やってよかった」というコミュニティ・スクールが私の理想です。</p>
教 育 長	はい、ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。

佐野委員

今の御発言のなかに出てきた、能力の高い地域の人というのは、意外とたくさんいらっしゃると思うんで、そういった方を掘り起こす、生かしていく形で、スポーツもあるでしょうし、芸術とか、そういったものもあるでしょうし、そういったところを取り入れることがコミュニティ・スクールに生きるのであればいいなという感じを持ちました。

私はコミュニティ・スクールでは地域と学校での、社会的な価値観の共有というのが、大切ではないかなと感じております。

学校では子どもたちの教育に、いろんな新しい今の社会に合ったことをどんどん取り入れていると思います。ITとか、ICTとか、携帯電話とかもそうでしょうし、あとは人権とかそういったいろんな考え方というのが、世代が変わるごとに変わってきていると思うんですよね。

なかなか高齢の方がそこまで追いついていない。学校に来ることで、そういったものを感じていただく。また、学校ではこういった地域の方たちがずっと地域で守り続けてきた、いろんな考え方とか、伝えなきゃいけないような、伝承しなきゃいけないようなこともたくさんあると思います。今の子どもたちは少子化もあるんでしょうけれども、兄弟姉妹が少ないということで、組織的な動きというのがあんまり得意ではないのかもしれないですけども、その辺がどうなのかちょっと、お聞きしたいのですけれども、地域の人たちはそういったものをずっとやり続けて、いろんな組織的な動きをされておられますので、子どもたちに組織的に動くことでできること、個人ではなかなかできないダイナミックなことができるんだよというのを見てもらうとか、個人の能力はすごく大切だけれど、地域社会がしっかりしてないと、そういった個人の能力を生かす場ができないという、社会の大切さというのも学んでいただきたいなと。子どもさんの今の状況と、地域社会でずっとやってきたことの、良いところでの社会的価値観を共有するとことができればいいなと思います。

教育長

ありがとうございました。他にございませんか。  
はい、どうぞ。

宮部委員

イメージということで簡単にお話しますが、先ほど浅江中学校の例やいろいろな好事例もあるんですが、「何々をやるから集まる」とかじゃなくて、自然な状態でできること。実は今ほとんどの学校はまだ門は閉まっていると思うんです。自由な世界といいますか、そういう自然と学校に集まって、ハード・ソフト合わせて、植木を刈るおじさんがいたり、草を抜くおばあさんがいたり、教室に入って授業を支援したりという形が自然に出てくるのを、ちょっとイメージとして持つ

<p>教 育 長</p>	<p>ています。</p> <p>「自然に」ですね。よく地方創生のなかで、学校が核となる地域づくりとか言われますのが、ひとつの組織として地域と学校が、特に小学校なんか言われます。そういうところをしっかりと活用して、そういう核となって活性化につながると、まさに自然にそういうところに集まっていくと。確かに良いかなというふうに思います。</p> <p>はい、他にいかがでしょうか。どうぞ。</p>
<p>岡 野 委 員</p>	<p>私は地域に住んでいる子どもたちも大人も、みんなが声をかけやすいように、まず地域で声が掛けやすいところから始めなければいけないんじゃないかなと思います。みんなが、この人はどこの誰です、その娘さん、ここのお孫さんとかいうのが、ある程度地域の人たちの存在、おじいちゃんおばあちゃんの存在、そういったものをみんながよく理解しあって、それからこういったことに入っていくんじゃないかなというのが一つあります。</p> <p>それとコミュニティ・スクールをするのに、色々な形で学校を統合しますよね。統合された中で、図書館を開放しようとか、武道館を開放しようとか、体育館を開放しようとかいう話はよく聞くんですが、そこに行きたくても、階段を上がらなければ行けない学校。だから、そういう統合する時にコミュニティ・スクールを狙ってするのであれば、その施設の作り方とかもちょっと考えとかないと。地域の方から、行きたいけどそこには行かれないというのもよく聞きます。ですから、皆が行きやすいところにするには、それもネックじゃないかなと思いますので、何かの時には検討していただくと嬉しいなと思います。</p> <p>それとさっきから話が出ています、伝えなければいけないもの、次の時代に伝えなければいけないことはたくさんありますから、地域のノウハウを持った、外部講師と言いますか、そういった方達を積極的に呼んで、授業や放課後でもいいですから、しっかりと活用してほしいです。</p> <p>そして、活用するときには、校長先生の采配や学校運営協議会の采配がないと、「私は行きます」という流れにはなっていないので、学校運営協議会でしっかり話をして、協議会に一般の人たちの意見や考えを受け入れてもらえるような運営協議会の運び方を、難しいかもしれませんが、是非をやっていただいて、学校運営協議会で決まったことをどういうふうの下に丁寧に降ろして行って、その流れまで考えて動いていかないといけないと思います。</p> <p>ただ、「開放しますよ。皆さん来てください。」ではなかなか入れないところが学校にはあるんですよね。ですから、校長先生はこまめに地域を動かれて、萩には校長室からもお便りとかを校長先生も各自</p>

治会に流されると思います。「いつまでに来たら、みんな子どもたちと一緒に何かができますよ。」というお知らせが学校の方から来ているところがある。

そういうのがあると「我々は学校に行ってもいいんだ。」とか、そういう情報発信というのがないと、普通の人には「いつ行ってもいいよ」と言われても、いつも覗けないです、学校というのは。その辺の学校側の情報発信を少し考えていただくといいんじゃないかな。そうしたら、いろんな人が学校に自由に出入りして、さっきの自然体が一番いいのですが、自然に行けるような雰囲気をもみんなで作っていかないといけないと思います。

もう一つは、今すでにやっていることをもう少し充実したコミュニティ・スクールもできるんじゃないかなというのがあるんです。例えで言いますと、東日本大震災の後に山口県の防災教育ということで防災委員の方が県内の各学校を見て回られたことがあります。そういったことで、地域で防災に関する考え方をしっかり持とうと。小中高の学校、地域の人、何かがあったらどこに避難したらいい、安全ですよというマップを各学校で作ったというのがあると思うんですよね。

だから、そういうのを見直して充実させて、中身をしっかりしたものをみんなで作って、ここで何かがあったらこの保育園の子どもたちはこの中学校が近いから、一緒に連れて逃げるような感じとか、そういった組織づくりといいますか、既に行ったことを充実させて、もっと地域の人と学校とが密接になるようなやり方が、他にもたくさんあると思うんです。そういったことをされたら、とてもいいコミュニティ・スクール、今からの姿、どういった姿にしたらいいのか、それこそ学校の特徴があると思うので、学校に合った、地域に合ったコミュニティ・スクールの形というのをみんなで考えると、とても素敵な人間関係ができるんじゃないかなと思っております。

教 育 長

ありがとうございます。やっぱり学校はまだ敷居が高いところがあるんでしょうね。

中 田 委 員

コミュニティ・スクールの状況というのは、先ほどの説明とか、これまでも実態を見せていただいたりしたのでよくわかっていますが、それぞれのコミュニティ・スクールの事例を見せていただいたときに、確かに特徴があることをやっておられたり、いいことをやっておられるなというようなことを感じます。

その中に、その学校の具体的な課題、地域の課題があつて、それに対してこういう取組をしているんだというような、実際の活動と課題というのが結びついているんだというやり方を、他の人が見ても、「この活動はこの課題のために役立っている」と示すことができればよくわかると思うんですよね。



そういうことによって、自分の学校ではこういう特徴を持ったコミュニティ・スクールができていますよと。そういう表し方がわかりやすく理解してもらいやすいんじゃないかな。

その中に積極的に関わっている人たちは、先生方にしても地域の人にしても、特に意識しなくてもやっておりますと。自分は生きがいを持ってやっていますということかもしれないですが、そこに参加している人ばかりではないわけですね。地域の中にはそういうことに関わらない、他の人がやっていることを見ている人たちもいるんですね。そういう人たちにも理解を広めていくためには、わかりやすい構図のようなものがあるといいんじゃないかなと思います。

もう1つは、各学校の課題ということで、先ほども石本委員と佐野委員のお話の中にありましたが、先生の多忙感ですよ。特にクラブ等の顧問の先生たちの中には、土曜も日曜もないという方がいるということですよ。これをなんとかコミュニティ・スクールの役割の中で、多忙感を解消できないのかなと。大学の例ですと、これは制度としてあるのですが、先生の仕事の一部を学生に謝金を払って、やってもらうというもの。例えば、簡単なテストの採点。考えるようなテストの採点では困るんですが、1番か2番かということで1番の方が正しいんだというような選択式のものだったら、そういう単純な形にして採点を手伝うとか、あるいは出欠の管理、こういうものを手伝ってもらうとか、そうやって忙しい先生たちの負担感を減らしていくという方向が考えられているんです。そういうことが何かないかなと思っ

ているのですが、なかなか根本的なやり方がないから、依然としてそういうことが課題として言われているんだと思うんですけど、何とかならないかなと思っております。

それと、小中高とコミュニティ・スクールで、地域で活躍する人について、地域の好きな人を育て、いざ就職しようと思うと、就職先がなかなかないという現実もありますよね。高校生の就職というのは、いつも聞いていますが99%ぐらいで、地元に残る人が非常に多いですね。90%ぐらいは多分、地元に残っているんだと思うのですが、大学に進学した人になると、割合が落ちていくわけですね。山口県出身の人が、山口県の中にも半分も残らないわけですよ。だから、そういうことを考えると就職ということも、教育委員会の役割では直接的ではないとは思いますが、これをどうにかしてもらわないと、教育を受けて地元のために役に立ちたいなと思っても、食べていけないということでは悲しいですから。なかなかならないかなと思っております。

教 育 長

はい、ありがとうございました。

先ほどあの多忙感というのがありましたが、すべてがそうなっているわけではないのですが、例えばある中学校ではいわゆるクレマー

	<p>が減ったと。コミュニティ・スクールをすることによってですね。</p> <p>だから、そういうことに対応していたエネルギーを本来、子どもに向かい合う時間、そういったものに使うと。</p>
中 田 委 員	<p>それは本当に素晴らしい効果ですよ。</p>
教 育 長	<p>はい、そういったことがコツコツできつつあるということになります。いろいろと理想の姿、イメージということでお話いただきましたが、今までのお話の中でもすでに出てきたところもありますが、理想の姿に近づけるためには、具体的にどういう取組をしたらいいのかなと。</p> <p>例えば、だれがどこでどういう取組をしたらいいかということがあれば、具体的なイメージがあればお話をいただければと思いますが、いかがでしょうか。もちろん、先ほどの理想の姿の追加でもよろしいですし、先ほど見られた映像についての御質問でもよろしいですし、お話をいただけたらと思います。はい、どうぞ。</p>
佐 野 委 員	<p>2点ほどちょっと。こうしたらいいというよりも、ちょっと心配ごとがあります。一つはコミュニティ・スクール、山口県は小中学校で100%ですが、今から特別支援学校、高校へも広げていくということで、学生さん達はそれぞれいらっしゃいますが、構成する立場の人たちとして地域の人たちや保護者、こういった方というのはコミュニティ・スクールが増えてくると、複数のコミュニティ・スクールに重複して参加しないといけない人が出てくるのではないかなと。</p> <p>特に地域の人達については同じ方がたくさんやらないといけない。そうすると、だんだんそれが重荷になってきたり、参加することで結果みたいなものが見えてくればいいのですが、そういうのが見えないと、たくさん参加していても意味があるんだろうかと思われるような方が出てきてしまうと、ちょっと困るなど。</p> <p>その辺りをうまく調整して、少し停滞してきたところやうまくいっていないところを後押ししてあげるような、そういったフォローがあるといいのかなと。多分、山口CSコンダクターとか統括コンダクターがそういった役割になるのかなとか思うんですが、これだけたくさんさんのコミュニティ・スクールができてくると、それぞれやっていくところから、全体をコントロールしていく立場も必要になるんじゃないかなと、そこが少し心配になっております。</p> <p>もう一つ心配なのは、いろいろと御紹介いただいた事例、この事例が全てのコミュニティ・スクールでやられていけば、何もいうことはないのかなと思うんですけども、実際には素晴らしい活動をされているところを紹介されているわけで、そこまでなっていないところもあるんじゃないかと思えます。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>そこで一つ思うのが、熟議とかワークショップで地域の意見を集約して、いろんな形にしていくことを教育委員会でもやっておられますが、そういったものがパッと集まってできるかなというところなんです。</p> <p>多彩な人たちが限られた時間で思ったことを言う。それを集約させるということになると、ある程度ワークショップや熟議の技術とか、ファシリテーターという形も、ある程度の方向性に導いたり、まとめていく技術を持つ人をある程度は配置しておかないと、「さあ、やるよ」と言ってもうまくいかないのではないかなと。</p> <p>ここで紹介されている事例では、うまくいっているんだと思うんです。そこに力を注いであげること、本当に全体のコミュニティ・スクールが活性化するんじゃないかなと。その二点を少し心配しております。</p> <p>今、ちょっと御心配の意見がありましたけれども、二点ほど義務教育の方で何か話があれば。一つは、同じ人間が重複しているのではないかということ。もう一つは、ファシリテーターなどの調整する人が必要ではないかということです。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。1点目の地域・保護者の方の重なりという点でございますが、コミュニティ・スクールは基本的に小学校、中学校、それぞれその学校ごとという形ではありますけれども、「やまぐち型地域連携教育」は中学校区を一つのまとまりとして考えております。</p> <p>そうした中で、当然、児童生徒の兄弟姉妹との関係で保護者の方、地域の方も複数の中学校区と重なるという場面がこれまでも多く出てきておりますし、これからも出てくるだろうと予想されます。そこはしっかりと調整して、本当に負担にならないような形で、一緒にやっていただくという配慮は必要になるかと思えます。</p> <p>それから情報交換について、山口CSコンダクターだけでやるものではございません。今、おっしゃいましたように、こういった人材を育てるといっても、これからこの取組を進める上で重要になってくるかと思えます。貴重な御意見ありがとうございました。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>他にどなたかございませんでしょうか。はい、どうぞ。</p>
<p>石 本 委 員</p>	<p>今後の大切なこととして、周知が大切かと思いました。特にコミュニティ・スクールが100%の県として頑張っているようでしたら、市報や回覧などで目立つようにコミュニティ・スクールコーナーとかをどんどん作って、開放していることを周知したり、参加してほしいという呼びかけに加えて、地域の方、保護者、生徒、先生の声という</p>

<p>教 育 長</p>	<p>のを少しずつでも掲載したら、こういういいことがあるんだというのを地域の方に知っていただいて、「こんなにたくさんの方が参加しているんだ」とわかれば、敷居も低くなって参加しやすくなるのかなと思いました。</p> <p>名前を載せてもいいよという人は名前を載せてもらっても、地域の方ではいいかなとも思います。</p> <p>私も心配なことがあるのですが、「だれでもいいよ」というと親としては安全面が心配になってくるんです。不審者の事件とかがあって、今は過敏になっている親御さんもいるのですが、やりたい人には面談などをして、入ってもらおうのでしょうか。図書室開放等のときにも、そういう方の情報と言いますか、登録はどういう形になっているのかが少し心配になりました。</p> <p>はい、ありがとうございます。おそらく学校に入る時に名前を登録して、名札を付けるようなことしていると思うんですが、安全のことについていかがですか。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。前半の御意見の中に、学校はまだ敷居が高いとか、門が閉まっているという御発言もあったかと思いません。理想というか、本来門は開いてあって、開いて守ると。先ほど、「人が自然に集まる」という御意見をいただきましたけれども、自然に学校に人が出入りすることによって、不審な人間が近寄らない、入らないという形になるのがいいと考えております。</p> <p>現実にはそこまで至っていないというところもあるわけですが、各学校に入っただけの方については、学校の教職員やPTAの役員、それから学校運営協議会の委員の方、地域の団体の方、そういった方々を通じて、そういう方がおられるんだからとか、御本人からそういうことをやりたいんだけど、ということで申出をいただいております。</p> <p>面談までやっている学校があるかどうかは、正確には掴んでおりませんが、少なくとも登録という形で、どこのだなたというのがはっきりと把握した形でお願いをしているというのが実態です。</p>
<p>教 育 長</p> <p>岡 野 委 員</p>	<p>はい、よろしいでしょうか。他に質問はありませんでしょうか。</p> <p>今の安全面でちょっと気になったのですが、空き教室をコミュニティールームとして使っているところが多いですね。そういった部屋の管理というのは、今はコーディネーターとか、地域の方がなさっている。私が行ったところはそうだったんですけど、そこに案内されて打ち合わせをしたりするんですが、そういうところの管理をきちんとしておかないと、誰でも自由に出入りができるような感じです。</p>

	<p>だから、安全面を考えれば事務室に入って登録をして入るとか、決まりというのを作っておかないと、まずいことが起きる可能性があると思います。「誰でもいい」ではちょっと無理かもしれないなと思うので、その辺はきちんと整理をした方が良くないかなと思います。とにかく、今から学校の統廃合などで空き教室がどんどん増えてくれば、そういうところを皆さんが使うようになると思いますから、基準というものをきちんと決めておかれた方がいいんじゃないかなと思います。</p>
教 育 長	義務教育課長どうですか。
義務教育課長	はい、おっしゃるとおりだと思います。子どもたちにとって学校は、子どもたちだけでなく、教職員、保護者、地域の方にとっても安心安全であるべき場所でございますので、決まりについては設ける必要はあろうかと思えます。いただいた御意見はこれから生かしていきたいと思えます。ありがとうございます。
教 育 長	空き教室等についても、手続をして使うという形があるので。
岡 野 委 員	そういうものがあるんですか。
教 育 長	はい。あります。学校教育の場ですから。目的と別に使うわけでございますから。
岡 野 委 員	今、空き教室を使おうとかいう話が、結構、地域でありますので、その辺をコミュニティ・スクールで使う使わないを別にしても、気になりました。
義務教育課長	<p>はい、ありがとうございます。空き教室を含め、先ほどの説明の中で、特別教室であるとか体育館であるとか、いろんな施設がございます。どんどん使っていただきたいと思えます。</p> <p>また、使うに当たっては、社会教育などの公共性があるものについては、使うことは認められておりますので、所定の手続をとれば、地域の方が使っていただくことは十分可能でございますので、いい加減にならないように、そこは徹底してまいりたいと思えます。</p>
教 育 長	他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。
宮 部 委 員	協働を進める方法ということですが、いろんな好事例もある中で、県内の学校すべてが実践しながら、PDCAを回しながら、それぞれの学校の特徴に合った、地域に合った特徴のものがあると思えます。

<p>教 育 長</p>	<p>そこから修正しながらやればいいんじゃないかなと思います。</p> <p>今の不審者の問題、安全の問題がありますが、実は地域の方で学校に来られる方、それは10人か100人か200人かわかりませんが、決まった範囲の方なんです。慣れた人はずっと来られているので、見かけない人を見ると「あの人は誰か」という話は必ず出ると思うんですね。その繰り返しの中で、そういった事情を押さえていますから、安全が守られるという形ができるのではないかなと思います。浮いている人は必ずわかりますから、挙動不審ではないですが、地域の方ですからわかるのではないかなと。そうであればいいなと思っています。</p> <p>山口県でしたら、おそらくそれが可能だろうと思います。大都会では難しいこともあるでしょうね。</p> <p>他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。</p>
<p>佐 野 委 員</p>	<p>今、コミュニティ・スクールについてすごく前向きな話ばかりなので、ちょっと後ろ向きな話かもしれないので申し訳ないんですが、地域の方とか参加される方というのは、自分が志願してやろうと思って来られます。生徒というのは、「こういうのやりますよ」と言ったら、一応みんなが参加するようになると思うんですね。そのなかで、積極的にコミュニケーションを図る能力というのは非常に重要なことだと思うんですが、そういうのが嫌いな子どもというのも、やっぱりいると思うんです。</p> <p>他の方向で自分の力を高めたいと思っている子もいると思うんです。そういった個性を尊重するという立場も持っていないと、「全員が参加するんだから」という形で無理強いをするというのもちょっと心配なところがあります。</p> <p>その辺うまく対応ができるのか。また、高いコミュニケーション能力を持っている方が、そういう子どもたちをフォローする何らかの形があるのかなというのが気になりました。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>もちろん発達障害とかいろんな状況の方がおられます。子どもたちもいますので、それはそれなりに対応しようともちろん思うんですが、それ以外のことについてどうですか。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。忘れてはならない視点だと思います。子どもが目指しておりますのが、地域教育力日本一でございます。</p> <p>地域教育力というものを考えたときに、今、委員の御発言の中にありました、様々な子ども達がいる、様々な大人がいる、それぞれの個性も大事にしながら、住みよい社会をみんなで作って上げていくとい</p>

<p>教 育 長</p>	<p>うのが地域教育力日本一ではないかと。これは個人的な考えなんです が、そのように私自身は思っております。</p> <p>そのためには、委員がおっしゃいましたような個性を尊重していく と。それを大事にした関わり方を大人も子どももしていくということが 必要になってくると思います。忘れないようにしていきたいと思いま す。ありがとうございます。</p> <p>そうですね。必要最低限なことはありますが、それ以上のところは というのは、なかなか線引きが難しいところがあると思うんですけど ね。他にありませんでしょうか。</p>
<p>岡 野 委 員</p>	<p>私、1番危惧していることが一つあるんですが、それは先生方の授 業の妨害にならないようなコミュニティ・スクールを進めてほしいと 思うんです。</p> <p>結構忙しくなって大変になる方もいますし、とても楽しく協力して くださる方もいますし、私も萩の、いろんなどころのコミュニティ・ スクールに行かせてもらっているんですが、先生方の思いが全然違う んです、一緒に動いていて。</p> <p>だから、「こんなことをするから私の仕事をもっと増える」とか、 そういう思いの方もいるので、そうじゃなくてその先生の授業がプラ スアルファになって、うまく前に進むようなサポートの仕方、だか ら、私たち一般の人たちが入るにしても、先生への支援といえます か、そういうふうにサポートができるような一般の人の入り方、学校 の中に入り方、それをしていかないと潰れてしまう先生が出てくるか もしれない。それがちょっと心配ですが、その辺をうまく執行部の方 で調整をしてほしいという思いを持ちながら、参加しています。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ありがとうございます。しっかり気をつけていきたいと思えます。 他によろしいでしょうか。はい、どうぞ。</p>
<p>中 田 委 員</p>	<p>先ほどの佐野委員が言われたことなんですが、子どもさんのなかには、 かなり早い時期、小学校あるいは中学校の時期から、将来の目標 をきっちり設定して、そのために毎日努力されている方もありますよ ね。</p> <p>これはスポーツであっても、習い事であっても、勉強であっても、 いろんな領域でそういう人がおられると思います。そのときに、「今 度の土曜日に地域のお祭りの行事に参加しますよ」というような、こ のコミュニティ・スクールとしての活動が入ってくる。そういうとき にどうしたらいいのかということだと思わんですけど、大学でも同じ ようなことがありますして、学生さんのなかには、はっきりと目標を決 めて、そのためにいろんな努力をしている人がいる。</p>

	<p>だけど、例えば、授業として夏休みに工場見学に行くというような授業を組むわけですが。でも、その学生にとっては、工場見学に行くよりも、今自分が課題としていることに時間を費やしたいというようなこと。あるいはもうちょっと厳しく言えば、5月の終わりから6月ぐらいにかけて、教員になりたい人は実習をしないとイケない。だから、授業を何回か出席できませんという学生が出てくるわけですね。そういうときに、先生によっては「100%許可します」と、つまり、欠席でも出席とみなすという先生もおられますし、「あなたの選択の問題であって、私の授業が大切か、それとも自分の将来が大切なのか、それは二者択一なんですよ」と言われる先生もおられる。教員免許というのは、経済学部の学生は必須ではないのですが、教育学部の学生はこれを目的としていますから、これは認めてあげないと資格が取れないのでそれは認めますと。</p> <p>だから、いずれにしてもコミュニティ・スクールに相当する行事と、大学で言えば授業と各生徒が持っている課題で、どういうものを選ぶのかというのは、これはなかなか全部を一般論として、どちらが大事なのかということは難しいと思うんですね。</p> <p>だから、今の状況でもそれぞれの学校の中で、「出席できる人は出席しなさい」というような言い方をしている場合もあるし、これは半分強制ですよと、よほどのことが無い限り、コミュニティ・スクールの行事には参加してくださいとか、そういうふうに個別の事情で違った指導をされているんじゃないかと思うんですね。その辺りは、先生たちも悩みがあるというか、そういう状況ではないかなと、僕の経験で言えば思うところなんですね。</p>
教 育 長	<p>特に日曜日はいろんな地域の行事に参加すると。いろんなことがあると思うんですね。強制で全員が参加というのはなかなか難しいだろうと思いますけどね。</p> <p>はい、ありがとうございます。他によろしいでしょうか。</p> <p>それでは、以上で本日の意見交換を終わりたいと思います。大変ありがとうございました。また御意見いただいたことについては、今後の参考にさせていただきたいと思います。</p>
教育政策課長	<p>それでは、次の教育委員会会議の日程について、教育政策課からお願いします。</p>
	<p>次回の教育委員会会議ですけれども、8月25日木曜日の午後2時からを予定しておりますので、よろしくお願ひします。</p>
教 育 長	<p>それでは、以上で7月の教育委員会会議を終わります。</p>